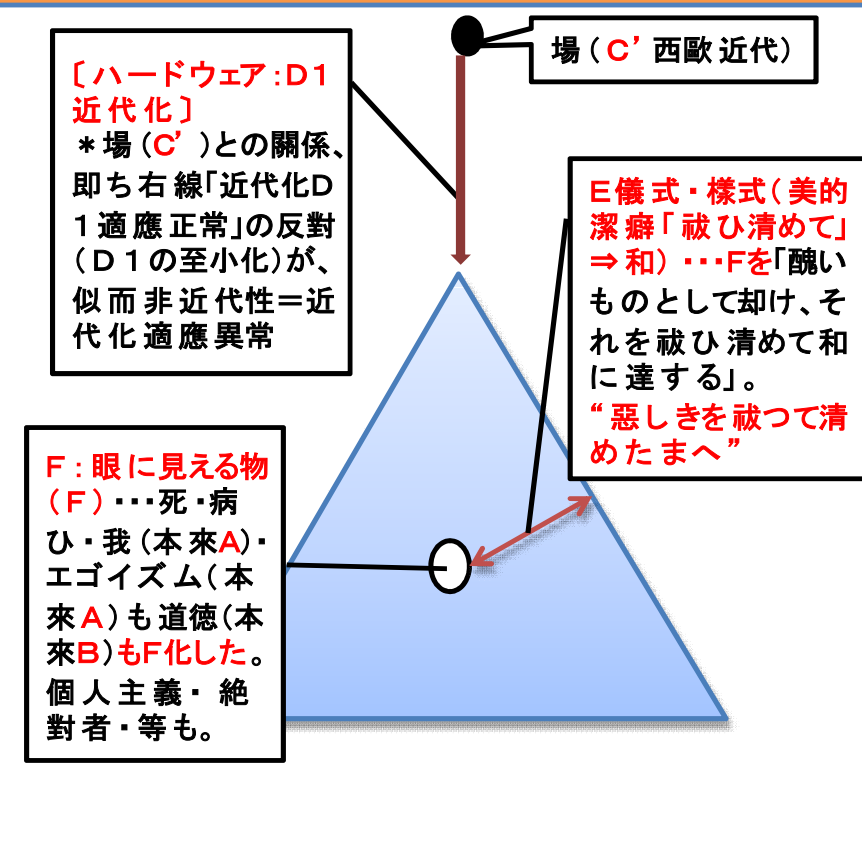


\*「現代日本人の非倫理的 性格」(P78『個人と社会』)の理由・・・日本文化(D1)の衰退＝型(E:美感・美的潔癖・美意識)の摩耗。それに打撃を與へた「相對主義の泥沼」。即ち、「日本人は封建時代に、現實的な絶對者をもつてゐました。それが明治になつてから天皇制に切りかへられた。そして戦後はさういふ絶對者を一氣に投げすててしまつたのです。現在の私たちは單純な相對主義の泥沼のなかにゐる(『日本および日本人』P198)」。



〔「Eの至大化」=「D1の至大化」理論の『日本および日本人』への適用〕・・・

\* P181「私たちの祖先は、死や病ひと同様に、我 (A) を、エゴイズム (A) を、このうへない醜いものとして却けてきたのであります。死や病ひを醜いものとして却け、それを祓ひ清めること (儀式E) によつて、その支配下から脱するといふ態度からは、いかなる科學 (實證精神: A' ⇒ A) も發達しなかつたのですが、同様に、エゴイズム (A) を醜いものとして却け、それを祓ひ清めて和に達する (儀式E: 美的潔癖 ⇒ 和) といふ態度 (非實證精神・非客體化的行爲: NOT「A' ⇒ A」) から、道徳 (B) の問題も、社會 (A' ⇒ A: 客體化) の問題も發生する餘地はありませんでした (⇒近代化適應異常)。私たちの祖先にとつて、道徳 (B) も、そのもとにあるすべての人間關係 (D1) も、けつして精神 (B) の問題ではなく、眼に見える物 (F) の問題であり、儀式 (E) によつて律しうる形 (E) の問題 (FはEの至大化、「祓ひ清めの様式」で片附ける。相對的處理の問題) だつたのです」(『日本および日本人』(全三P181)。

〔即ち、「祓ひ清めて和に達する (儀式E: 美的潔癖 ⇒ 和)」からは道徳の問題 B ⇒ C は發生しないと云ふ事〕⇒即ち倫理・道義の缺如〕